

企業名： 三菱重工業

レポート名： MHI REPORT 2021

### 1. この会社が目指す姿が理解できるか

巻頭の対談からこの会社が経営において、新しい考えを積極的に取り入れ、企業内の健全な新陳代謝を目指していることが分かった。また、初めのほうにある経営理念は非常にわかりやすく、この会社が顧客のニーズを第一に考え、世界的に活躍する会社を目指していることが伝わった。長期的目標としては社会貢献をととても強調しており、特にエネルギーのコストや供給安定性などに地域差・産業差が生じないような社会を目指して、カーボンニュートラルの実現やさらなる機械化を進めていくようである。そして、短期的には上記の二つを成長領域と位置づけ、経営資源を集中させ、新事業創出を目指すようである。自社の新事業の開拓とともにそれを通じた社会貢献を目指していることは伝わった。

### 2. この会社の競争優位性が理解できるか

各事業分野の強みの中に必ず技術力が上がっていたので技術力がこの会社の競争優位性だと思った。また、この会社は様々な事業に手を出しており、さらにこれから新規事業を展開しようとしていることから、お金や従業員の数を含めた企業の体力は他の会社と一線を画すものがあると思う。社長メッセージにあるように多様なスキルや異なるバックグラウンドを有する人材を獲得・育成することで社員同士が刺激を与えあい、新たな発想が出てくるようにしているようである。このことからユニークな発想を持っている社員がこの会社の価値を高めている。従来の三菱重工業は周囲や環境に大きな差がない均質的な職場風土であったようだが、現在は多様な考え方があふれる会社になっているようであり、職場をそのような気風にした社長の存在もこの会社に大きな価値を与えているように思う。それだけでなく、近代から積み上げてきた三菱というブランド力は顧客に安心感を与えるため、三菱というブランドは競争優位性になっていると感じた。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

ベンチャー企業の支援を通じて社員の視野を広げる機会を設けている。また、経営人材についても有望な人材をビジネススクールと連携して経営の知識やスキルを習得させたり、業務経験を積ませたりする活動を行っているため、人材の競争優位性は失わないと思う。この会社が持っている技術水準が他社とどの程度の差があるのか、それは近いうちに追いつかれてしまうものなのか、ということや今展開している競争の激しい事業が資本家にとって魅力的なのか、ということはわからなかった。現在の事業だけでは資本家にとってはそこまで価値があるように映らず、企業の体力は持続しないと思った。しかし、この会社は積極的

に新規事業の開拓を行おうとしているので、資本家にとっては魅力的であると考えられ、資本は持続的に集まると考えられる。一方で総資産の時系列推移が右肩下がりになっていることから、現在の事業が衰退していく可能性も考えると、前ほどは資本が集まらないようになると思った。

#### **4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか**

様々な事業を展開し、新規事業の開拓にも積極的な姿勢を示していることを考えるとこの会社で筆者は人的資本の価値向上を達成できると思う。多様なスキルやバックグラウンドを持つ人材を獲得・育成していることもこのように思った理由の一つである。人的資本の価値には人脈も含まれると思うので、幅広く事業を展開しているこの会社は人脈を広げることにも適していると考えた。

#### **5. 報告書にはどのような改善余地があるか**

詳細は○ページをご覧くださいという記載があったが、ネットにアップしているものはクリックすれば自動で所定のページに飛ぶ仕様にすればさらに読みやすいと感じた。重点課題（マテリアリティ）とするぐらいなら重点課題だけでいいと感じた。マテリアリティと書かれていてもわかりづらいし、日本人向けに書いているなら無理して横文字を使う必要はないと思う。